

令和7年度 北・北海道中央圏域 定住自立圏共生ビジョン懇談会 次第

日 時 令和8年2月18日(水) 午後1時30分～
場 所 名寄市役所風連庁舎3階中会議室

1 開 会

事務局(士別市 増田課長)

2 名寄市長挨拶

加藤市長より挨拶

3 議 題

(1)座長・副座長の選出について **承認**

- ・座長に名寄市立大学の堀川委員を指名
- ・副座長に士別市振興審議会より谷委員を指名

(2)定住自立圏共生ビジョン登載事業の実施状況及び定住自立圏共生ビジョンの
変更について **承認**

- ・主に共生ビジョン登載事業における令和6年度決算事業費、令和7年度以降の
事業費の変更案、及び事業内容の変更について事務局より説明
質疑なし

(3)その他

特になし

4 意見交換

テーマ『公共施設の現状と課題、長寿命化や有効活用について』

(1)構成自治体での取組事例の紹介

『公共施設マネジメントについて』

士別市総務部財政課 課長 佐藤 寛之

『公共施設の統合再編について<名寄市の現状>』

名寄市総務部財政課 主幹 松永 加奈

質疑

・委員

名寄中学校と名寄東中学校の生徒数を教えてほしい。また、改築事業費と建築事業費
について教えてほしい。

⇒加藤市長

全校生徒数は手元に資料が無いのでわからない。名寄中学校では1学年3学級、東中
学校では1学年2学級。

名寄中学校は新築のため解体の費用も合わせると約50億円、名寄東中学校は改築の
ため約15億円程度であったかと思う。

(2) グループワーク

2 グループに分かれて、テーマに沿って意見交換。各グループのまとめを全体で発表。

○グループ①

- ・人口減少が進み、人口が半分になると公共施設やインフラを維持するために必要となる一人当たりの負担額は2倍になる。現在ある施設の統合・廃止することを住民の理解を得ながら進めることは難しいため、早めに問題提起をし、時間をかけて進めていくことが重要である。
- ・施設を統合・廃止することで市民は移動の負担が大きくなる。
- ・複合型施設を建設しても人口が減少した場合、水道料金などが高騰するため高齢者が住むことが難しくなるのではと心配の声があがっている。
- ・稼働率の低い公共施設を閉鎖することに対して理解はできるものの閉鎖が進んでいくと、住民の潤いや心のゆとりが、なくなってしまうので残してほしいという気持ちもある。
- ・それぞれの自治体で公共施設を持つ必要はないと思う。必要に応じて公共施設を貸し借りできないかと考える。

○グループ②

- ・どの自治体も廃止した公共施設の利活用などの課題を抱えている。利活用にはスムーズに進む場合と進まない場合がある。
- ・士別には重複する公共施設が複数ある。例としてスキー場や大ホールなどが挙げられる。市街地と朝日地区で20キロの距離があり、移動には約30分の時間がかかることから、公共施設を市街地と朝日地区のどちらかに集約した場合、移動手段の確保が課題である。士別市街地の住民より朝日地区に向かうための移動手段の確保が求められる一方で、朝日地区の住民は合併から20年経過したこともあり、移動を苦にしていない。このような移動に対して温度差があることは合併の弊害であるとともに公共施設の再編の難しさを表している。
- ・廃校となった学校を利活用することはできるのか。できない場合は壊すのかという質問があった。これについては時と場合による。士別市の場合、令和9年度から開講する義務教育学校については小学校の建物を使って義務教育学校にする。そのため使用しなくなった建物の解体が学校事業債に該当するため解体する。学校事業債などの国の補助がない場合は危険度の順番によって解体するかを検討する。
- ・音威子府の小中学校も義務教育学校となり、中学校が空き家である。芸術作品を展示したり、物置として利用しているものの有効活用が難しい。
- ・幌加内町には4,000人の人口がいたものの現在では1,000人まで減少した。そのような状況で複数存在するプールやゴルフ場のすべてを残すことは不可能であるが、合意を得ることは難しい。]

- ・それぞれの自治体がすべての公共施設を持つことが難しくなっている。そのため、上川管内で連携するだけでなく、公共施設の貸し借りをすることで補っていくことが必要。公共施設を市民だけではなく地域のためにどのような形で生かせるかが大切だと考える。
- ・公共施設はお金をかけすぎていると思うので、シンプルなつくりで建ててほしい。

5 その他

事務局より

- ・今年度の開催は今回のみ
- ・ご審議いただいた内容を反映した共生ビジョンは後日 HP で公開

6 士別市長挨拶

渡辺市長より挨拶

7 閉 会